

関係各位

一般社団法人 医薬品セキュリティ研究会
第 11 回フォーラム「協賛」についてお願い

謹啓 貴社におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2019 年末に始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックの裏で、予防・治療を謳う偽造品や詐欺品が横行し国際的な規制当局は警戒、取締を強化しました。また、新型コロナウイルス禍で拡大した電子商取引（EC）により現物を確かめずに購入する機会が増え、様々な企業にとって偽ブランド品などの模倣品対策が急務となっています。さらに進歩が著しい人口知能（AI）の普及により、医療や科学の飛躍的な発展が期待される一方、偽情報が氾濫し、医薬品などの医療関連製品や医療そのものを、偽情報から保護しなければならない時代になりました。急激に拡散する偽情報と闘いながら、真正な製品を必要とする人に確実に届け、適切に使用される社会を守らなければなりません。製品の真正性の保証はもとより、関連する情報や周囲の環境も確かなものでなければなりません。医薬品のセキュリティがこのような広い角度から求められることは、当研究会が発足した 10 年前の予想を超えるものです。伝統的な偽造薬出現の抑制に留まらず、AI 社会において真正品を確実に患者に届け、適正に使用されることを確保する技術情報の交換や支援に視野を広げて参りたいと考えております。

平成 25 年 3 月に開催された日本薬学会のシンポジウム「偽造医薬品の最前線-忍び寄る脅威との戦い」において、偽造医薬品に関わる規制当局、国際的取締機関、製薬企業、防止技術開発企業、アカデミアが一堂に会し、偽造医薬品の実態と対策について議論致しました。このシンポジウムの成功から、偽造医薬品への継続的取組みが必要と考えられ、製薬企業、流通業界、防止技術開発企業、アカデミア、公的セクター等がオープンに議論し、情報交換し、偽造医薬品防止技術の開発・利用の促進に資するとともに世界とも連携することを目指して、日本薬学会シンポジウムのオーガナイザーが中心となり、平成 25 年 9 月 2 日に一般社団法人医薬品セキュリティ研究会としてスタートしました。

第 1 回フォーラム（平成 25 年 9 月）「偽造医薬品と闘う技術の最前線」を皮切りに、第 10 回フォーラム（令和 4 年 8 月）「サステナビリティ実現のための偽造医薬品対策」まで毎年、官公庁、国際機関、製薬企業、流通関連企業、技術開発企業、第三セクター、アカデミアそれぞれの立場から取組みをご紹介頂き、意見交換や協力醸成が行われました。

第 11 回（令和 5 年 8 月）は「ネット社会におけるオークション・SNS 等の偽造品/模倣品の脅威と対策」と題し、すっかり日常生活に入り混んでいるインターネット上のコミュニティサイトを利用した偽造品の実情とその対策についてご経験、ご見解を交換し、防衛・対策強化に役立つことを図っております。良品質の医薬品やワクチンの確保は SDGs や ESG の達成に不可欠です。

本フォーラムを更り多きものにするために、皆様の積極的なご参加及び、各社、各団体におかれましては、何卒第 11 回医薬品セキュリティ研究会フォーラムに対してご協賛を賜りますようお願い申し上げます。

本研究会の活動を継続的なものにするために、医薬品セキュリティ研究会の会員募集を引き続き行い、会員間の情報共有、偽造医薬品対策のレベルアップを目指して参りますので、奮ってご参加いただけますようよろしくお願いいたします。

謹白

<医薬品セキュリティ研究会 フォーラムの軌跡>

- 第1回 2013年9月9日
「偽造医薬品と闘う技術の最前線」
- 第2回 2014年4月18日
「偽造医薬品と闘う技術の最前線2 ―真贋判定技術に求められる要件とは―」
- 第3回 2015年4月14日
「医薬品の流通セキュリティの課題と今後」
- 第4回 2016年9月16日
「グローバル流通する偽造医薬品との闘い」
- 第5回 2017年8月25日
「安全神話の崩壊」
- 第6回 2018年10月19日
「止められるか、偽造医薬品と不正流通」
- 第7回 2019年8月30日
「世界の医薬品セキュリティの動向」
- 第8回 2020年10月23日
「With コロナの時代の偽造医薬品対策」
- 第9回 2021年8月20日
「コロナ禍における偽造医薬品の脅威」
- 第10回 2022年8月26日
「サステナビリティ実現のための偽造医薬品対策」

令和5年7月吉日
一般社団法人 医薬品セキュリティ研究会
代表理事 木村 和子
金沢大学名誉教授